

杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

1~4面 巻頭特集
大学の学び 人と社会のために

5面 総合政策学部で学ぶAI

6~7面 わたしの書棚から特別編
読書の秋を楽しもう

8面 連載
金田一教授の研究室から
健康ひとくちメモ
貧血 岡本晋 三鷹保健センター長

クラブ活動報告
2019年度上半期大会記録、活動記録

大学の学び 人と社会のために

知の拠点として、杏林大学は1966年の創立以来、建学の精神「真・善・美の探究」を礎に、研究と学びの成果を教員、職員、卒業生、学生が社会や地域に還元してきました。杏林ならではの医学、保健、人文・社会科学の各分野の特色を活かして継続的に様々な

社会・地域活動をしています。今号では、そうした活動のなかで、学部を越えた保健医療分野の取り組み、終末期医療啓発活動、地域医療機関と連携した救急対策、子どもやお年寄りに寄り添う仕事・活動を集めます。



幼児に性教育を行うための支援「いのちのおはなし会」



ヘリポート患者搬送訓練



学生による地域清掃活動



高齢者のための総合健康プログラム「羽村市健康講座」



南スーダンでの活動



あきる野市キララホール ロビーコンサート

教職員・学生は「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」をテーマに学内外で活動しています。杏林大学は、これからも市民、行政と協力して地域の課題解決に取り組みます

「真・善・美の探究」と社会貢献

おおたき じゅんいち
学長 大瀧 純一

大学の大きな使命のひとつに社会への貢献があります。

杏林大学新聞の前号(21号)では、本学の卒業生たちの実社会での活躍ぶりが紹介されました。いずれの卒業生も大学で学んだことを活かし、それぞれが、地域で、そして広く海外で人々のために貢献していることがわかって感銘を受けました。大学も歴史を重ね、こうした人材の層が厚みを増していることを実感し心強く思います。

本学の建学の精神である「真・善・美の探究」。その大きな柱は、やはり人のため

に尽くすという心と行動、そして健全な社会を実現するための貢献だと思います。

大学を取り巻く時代環境は大きく変化し、厳しさを増しています。こうした中でさらに発展を加速していくには、大学が自らの立ち位置を明確にし、存在価値を目に見えぬ形で高めていくことが欠かせません。

私は「真・善・美の探究」という理念のもと、総合大学としての4学部共通の目標として「社会の健康を守る大学」ということをさまざまな場でお話しています。

学生たちには、地域などで自らができる

範囲での貢献を实践させ、これを通じて社会人として必要なコミュニケーション能力や課題解決能力を磨く一方、倫理感を持って人々のために尽くせる人材となるよう養成していきたいと考えています。

教員もその専門性と経験の蓄積を活かし、広く海外も含めて「社会の健康を創り、守っていく」具体的な取り組みを実践していくことが不可欠だと思っています。

今号でご紹介する取り組みが着実に根付き、さらに広がって行くことを期待しています。

学長も地域で連続講座

大瀧学長の「高齢者における心の健康とは？」をテーマにした講座が、5月から7月にかけて連続6回、八王子市で開催されました。

連携協定を結ぶ八王子市の市民の学びの場、「いちよう塾」で開かれた講座には定員を超える申し込みがありました。加齢に伴う不安感や焦燥感、抑うつ感などについての講義を、受講者は自分自身のこととしてとらえ、熱心にメモなどを取っていました。



言語の壁越え感染症を防ぐ

総合政策学部 外国語学部



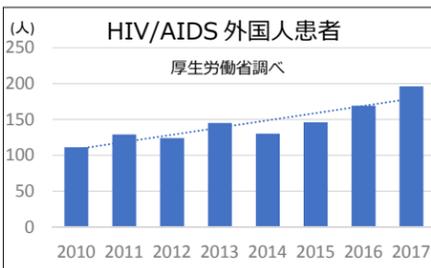
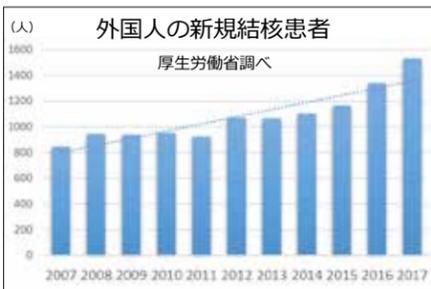
北島 勉 (きたじま つとむ)

総合政策学部教授
杏林大学大学院博士(保健学)。保健医療サービスへのアクセス(利用可能性)の改善を研究テーマとする。2000年からタイでのHIV感染者ケアの提供システムに関する研究などを実施。2016年度から日本の外国人エイズ対策事業に携わる

五輪を背景に増加する外国人

2019年3月、福岡市の日本語学校で生徒と日本人職員計26人が、結核に集団感染したニュースは記憶に新しいところでしょう。近年、日本に暮らす外国人の結核患者やHIV(エイズ)陽性者が増加しています。今年4月には、外国人労働者の在留資格「特定技能」が新設され、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが控えており、今後さらに在留外国人が増えると予想されます。

厚生労働省や出入国在留管理庁は対策を



急いでいますが、この背景には、日本語が話せない外国人は、感染症に罹患しても医療機関を受診できていない現状があります。

学部を越えた取り組み

総合政策学部北島 勉教授と外国語学部宮首弘子教授は、2016年から自治体やNPO法人等と連携し、在留外国人のHIV検査受検の促進や陽性者の医療関連サービスへのアクセスを改善するプロジェクトに取り組んでいます。*

北島教授は、2017年から国際協力機構(JICA)と共同で、タイ北部のHIV感染者の医療サービスを拡充させる活動に携わっています。杏林大学病院の医師やHIV/AIDSコーディネーターナース等と共に、現地の看護師の教育や保健センターと地域病院の連携システムの構築を行ってきた経験を活かして、国内での問題に挑んでいます。

※厚生労働省の科学研究費補助金「エイズ対策政策研究事業」。2016～2018年度の3年間で一旦終了し、現在はその後継の研究として2019～2021年度の3年間の1年目を実施中。沢田貴志医師(NPO法人多言語社会リソースかながわ理事)と共同で実施

HIV情報伝える多言語アプリ開発

北島教授らは、課題を把握し、対策方法を考えるために、海外の現場を視察しました。2016・2017年には、都内の日本語学校などで、アジア圏の留学生たちを対象にHIV検査に関する調査を行いました。この



HIV検査の検査方法や注意点などが、英語、中国語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、タガログ語(フィリピン)、インドネシア語、ネパール語、ビルマ語/ミャンマー語で表示される

とき、宮首教授のゼミの学生が中国語でのアンケート実施に協力しました。

その結果、多くの回答者がHIV検査の場所や検査システム、病気に関する知識がない、また日本語が不十分なため、情報にアクセスできないことがわかりました。

これまでの研究成果をもとに、共同研究者らとHIVの基礎情報や検査項目などを中国語やタイ語など10カ国の言語で説明するアプリを開発しました。

現在はアプリの改良に取り組んでおり、今年8月には東京都感染症対策課の協力のもと、都内の保健所等の職員とHIV検査の多言語対応について意見交換会を実施しました。

今後、保健所等でアプリを試用し、職員と利用者からフィードバックを得ながら改良していきます。

将来は、各地域の保健所で導入してもらうほか、希望者は、保健所以外からでもアプリにアクセスし、気軽に検査を申し込めることを目指しています。

専門性の高い医療通訳者の育成

HIV感染者は、結核を発症するリスクが高いため、結核にも注意が必要です。この10年間で、外国人の結核感染者は倍増しています。医療機関での通訳のニーズが高まっていることから、プロジェクトではHIVと結核の知識を有した医療通訳者を育成する研修を実施しています。首都圏を中心に、2016年から3年間で3回実施し、計110名が参加しました。参加者が使用していた言語は12カ国語で、中国語の指導は宮首教授が担当しました。

日・中通訳に取り組んできた宮首教授は、10数年前から、医療現場での通訳者の必要性を感じ、研究を行ってきました。

医療通訳者の研修について宮首教授は、「多くの現役医療通訳者が受講している。彼らは、感染症の専門知識やセクシャルマイノリティの知識など、HIV・結核に特化した背景も学ぶ必要がある。また、陽性結果の告知に立ち会うことも踏まえて、ロールプ



宮首 弘子 (みやくび ひろこ)

外国語学部教授
杏林大学大学院博士(学術)。日・中通訳、翻訳を指導。10数年前から医療通訳研究に取り組む。中国西安交通大学では客員教授として大学院生に通訳・翻訳の指導も行う

レイを交えた指導をしている」と話しています。研修修了者が、実際に医療機関等の依頼で現場に派遣された回数は、延べ220回を超えています。

今年は大阪でも研修を実施しますが、「今後、関西地域で通訳者の育成を広げたい」と展望を語っています。

持続的な活動を目指す

この研究の代表者である北島教授は、「引き続き自治体やNPOなどと協力して調査を継続し、効果を検証する必要がある。医療通訳者の派遣費用はどこが負担するかなどの課題もある。在留外国人が、日本人と同等にHIV検査や医療を利用できるような仕組みづくりに貢献できる研究をしたい」と抱負を語っています。



保健所の職員に説明をする北島教授。取り組みを実効性のあるものにするためには現場の人の協力が大きい

子どもの命と権利を守るため

国連児童基金(ユニセフ)NY本部で働く 卒業生

杏林大学新聞では、第8号(2012年9月発行)で当時南スーダンで人道支援活動をしていた景山健さんを紹介しました。あれから7年、現在 国連で働いている景山さんの近況報告です。



景山 健 (かげやま たけし)

2007年外国語学部卒業。米国でMBA(経営学修士)取得。日本の民間企業やNGOで働いたのち、南スーダンなどで人道支援活動を行う。外務省国際機関人事センター派遣候補者選考試験合格、2017年からユニセフ本部で働く

支援活動に必要な予算を管理

「人の命を救う仕事をするため、国連で働きたい」。その夢がかない、2017年からニューヨークの国連児童基金(ユニセフ)本部で働いています。

ユニセフは、すべての子どもの命と権利を守るため、最も支援の行き届きにくい子どもたちを最優先に190の国と地域で、栄養不良の治療、はしかの予防接種、安全な水や教育の機会を提供する活動をしています。

世界各国の職員と行う仕事

私はいま、財務を担当する部署にいます。この春、ブダペストで新しい予算システムの研修があり、トレーナーとして参加しました。120以上の国と地域からユニセフ職員が集まる大規模な研修で、国連の多様性

を肌で感じました。スタッフそれぞれが文化の違いを理解し、尊重して、困難を乗り越えていく姿がとても印象的でした。

紛争地域での経験が活きる

仕事をやる上で大切にしていることが2つあります。1つは、心に余裕を持つことです。

以前活動していた紛争地域では、緊迫した状況下で判断を下すことが何度もありました。適切な判断をするためにも、相手を笑わせることができる心の余裕が必要でした。ニューヨークのオフィスで働いても、それは重要で、色々な国から来ている同僚の信頼を得やすく、チームにも受け入れられやすいように思います。

もう1つは、相手がどう受け取るかを想



南スーダンで活動していた頃の景山さん(中央)。避難民のキャンプ地に支援物資を届ける

像して言葉を選ぶことです。出身国やバックグラウンドが異なると、言葉の解釈も大きく異なります。どの言葉を選べば、自分の意図が相手に伝わるか、日々試行錯誤しながら仕事をしています。

人道危機にどう立ち向かうか

これまで私は、南スーダンでの帰還民支援、タジキスタンにおけるアフガニスタン難民支援、シリア人道危機などに携わってきました。どこも私たちと同じ普通の人々が、命がけで紛争から逃れ、ギリギリのところまで避難生活を送っていました。なんとか生きられる環境を、少しでも生活が改善するよう、そして子どもの教育の機会を逃さないようにと支援をしてきました。

これらの人道危機は、その規模の大きさから、国際社会が連携し、一丸となって取り組む必要があります。

困った時はお互いさです。ぜひ、多くの方がこの問題に興味と関心を持ち、それぞれの立場でどのように国際社会の平和と安定の維持に貢献できるかを一緒に考えてほしいと思います。

人生の最後をどう迎えたいか？

保健学部



地域で講演活動をする角田准教授。講演は月2,3回になることも。人生の最後の迎え方に対する関心の高さがうかがえる

価値観や自己決定を大切に

人生の最後を、自宅で穏やかに迎えたい。そう思っている、実際には病院で延命治療を受けながら亡くなる方が少なくありません。

自宅での穏やかな日々を選んだ A さん

80代後半のAさんは、手術をしても治る可能性が50%の進行がんでした。主治医は、治療法として手術や抗がん剤治療、緩和治療の説明をして、選択をAさんと家族に委ねました。

Aさんは、体力的なことを考え、手術や副作用がある抗がん剤治療でなく、自宅で穏やかに人生の最後を迎えることを希望しました。

一方家族は、手術などの治療を受けて、少しでも長生きしてもらいたいと思っていました。

そうしたなか、終末期医療に本人の意思を尊重するためのプロセス「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」が、医療、介護の現場を中心に急速に広がっています。

角田先生は、Aさんと家族から、長い時間をかけて話を聞き、言い出せない思いを引き出し、本当の価値観を見つけるACPを行いました。

具体的には、「これまでどんな経験をしてきたか」「何が好きで、どんなことが嫌なのか」を、一つひとつ確認していきました。Aさんの気持ちは最後まで変わりませんでしたが、家族はAさんの価値観を理解し、受け入れました。

いまAさんは、往診を受けながら、自宅で穏やかな日々を過ごしています。

ACPは、医療や介護が必要になった時、どんな治療やケアを、誰から、どこで、どんな形で受けたいかを自身に問いかけ、家族や医療者等と共に話し合い、人生の最後の迎え方を考えていくことを言います。

保健学部の角田ますみ准教授は、ACPを患者や家族だけでなく、医療や福祉、教育の現場に普及させる活動をしています。

訪問看護師の経験がきっかけに

角田准教授は、病院で看護師として十数年のキャリアを積んだのち訪問看護師に転職しました。

訪問看護では、最小限の医療器具と薬品を自転車に積んで、一人暮らしの高齢者、家族と暮らす認知症の方などを担当しました。訪問先で、患者さんや家族からいろいろな話を聞くうちに「その人らしく生きるために最適な治療法があり、その人らしい人生の終わり方があると思うようになった」と角田准教授は振り返ります。

死は“暗い現実”ではない

「本人が望んだ治療だったのか」介護や看取りに家族の後悔はつきものです。

これについて角田准教授は、死を“暗い現実”と捉えるのではなく、どう死を迎えるかという、むしろ“希望的”な作業がACPだと指摘します。そして、この作業を繰り返し行うことで、本人の意思の尊重だ



角田 ますみ (すみた ますみ)

保健学部准教授

早稲田大学大学院修了。大学病院などを経て訪問看護に携わる。2014年から杏林大学。専門は生命倫理学。主な著書に『看護に生かすバイオエシックス-よりよい倫理的判断のために』(学研)、『笑う角田には福が来る』(へるす出版)等

けでなく、看取る側の後悔も軽減されると話します。

医療現場への普及を目指す

角田准教授が目指すのは、医療者が患者と一緒にACPを考える仕組み作りです。

保健学部の学生の多くは、将来、直接患者に接する医療者になることから、学生の教育は医療現場にACPを普及させる一歩と考えています。授業でACPに関する意見交換を積極的に設ける一方、家族を含め自分たちの周りでも話題にしてほしい、と話しています。

脳卒中から地域を守る

医学部・病院



平野 照之 (ひらの てるゆき)

医学部脳卒中医学教室 教授
医学部付属病院 脳卒中センター長
熊本大学医学部卒業。国立循環器病センター、豪州メルボルン大学 National Stroke Research Institute、大分大学などを経て、2014年から杏林大学

医療体制の整備進む

ジャーニー喜多川さんや西城秀樹さんなど、多くの方々が脳卒中で亡くなっています。

脳卒中とは脳出血、脳梗塞、くも膜下出血といった脳で急激な血液の循環機能障害が起きる症状を総称して言い、一刻も早い対応が求められる病気です。

かつては国民病とも呼ばれ、日本人の死因では今も男性は4位、女性は2位を占めます。このため去年暮れには、生活習慣病の抑止や禁煙などの予防策を推進するとともに、医療体制の整備をめざす脳卒中循環器対策基本法が制定されました。

杏林大学中心にネットワーク形成

脳卒中から地域を守ろうという取り組みが今、杏林大学が中核となって進められています。

多摩地域の13の医療機関で構成するネットワークの代表世話人として取り組みを推進しているのが、本学医学部付属病院脳卒中センター長の平野照之教授です。中心メンバーとして脳神経外科の塩川芳昭教授も参画しています。

30の市町村からなる東京・多摩地区は人口が400万人を超え、都道府県と比較すると福岡県に次ぐ全国10番目に相当する人口です。

しかし、重度の脳卒中患者を治療できる病院の数は都内23区と比較すると3分の1にとどまり、高度の治療に対応できる専門医もあわせて20人ほどです。

杏林大学医学部付属病院には独立した脳卒中センターが設置され、多摩地区の最後の砦として24時間態勢で臨んでいます。カバーエリアが広く、時間との勝負になる脳卒中は多摩地区全体の病院や救急隊が一体となった連携が不可欠です。

医師同士の連携はかる

平野教授らが進めているネットワークの取り組みには3つの柱があります。

第1に、専門の医師同士の横のつながりです。普段の交流で互いに顔が見える関係の構築は、電話一本で話が通じるなど緊急時の対応に役立ちます。その日にどの病院で

多摩地区医療ネットワーク

杏林大学病院含む
13の医療機関が連携



どの医師が勤務しているかなどを明確にしておくことで緊急搬送が効率化されました。

ICT活用し情報共有

第2は、実態の調査と緊急搬送時の方式を変える提言です。脳卒中患者の数や症状などの情報は各病院にとどまり、地域の全体像は必ずしも明確ではありません。まずは実態を把握し、対応にばらつきが出ないよう対策を練る必要があります。

一方、脳卒中の患者について、東京都では最寄の病院に救急搬送することを原則としています。

しかし、来年1月からは、重症でとりわけ緊急の処置が必要な患者は専門性の高い病院に直接搬送する方式に変わります。救急車に搭載されたタブレット端末に、その時、高度な治療が可能な病院が表示され、迅速な対応が可能になります。

情報を共有化した多摩地域のネットワークがなくては実現しませんでした。

救急隊との連携

第3は、救急隊員への教育と啓発です。専門医の集まりに救急隊員も参加することにしました。患者の症状の軽重を現場で見極め、適切な搬送につなげるためです。

具体的には、患者の眼球の異常な動きや“宇宙人”のような特異なしゃべり方をしている状態、目の前の空間の片側を無視するなど、重度の脳卒中の特徴的な症状を理解する啓発を進めています。東京都全体では、こうした救急隊員への教育はまだ始まっておらず、多摩地区で先行した取り組みが進んでいます。

平野教授は「少しずつですが、着実に成果が上がっている。さらに仲間を増やし、多摩地域での連携を深化させたい。また、当院は内科医と外科医で構成される脳卒中センターがある。大学病院として幅広い視野で若者を育て、こちらの面でも仲間を増やしていきたい」と話しています。

大学の学び 地域で活かす

社会人履修生 学生

地域のリーダーとして活躍する履修生

本学は、地域の活性化に貢献する人材の養成を目指す履修証明プログラム「生きがいつくりコーディネーター養成講座」を2014年秋に開講しました。

2019年度は、「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」として地域活動に関わっている人、関心のある人などを対象に、地域振興やコミュニティ、高齢社会における健康をめぐる諸問題を学ぶ講座を開講。現在14人の社会人履修生が学生と机を並べて学んでいます。社会人履修生の大戸理恵子さん(2018、2019年度履修生)と大久保隆さん(2016、2018、2019年度履修生)に話を伺いました。

地域の“結び”役として

おおどりえこ
大戸理恵子さん



学ぶ楽しさ味わう

昨年からの講座を受講しています。英語や文化交流、心理、福祉などの講座を受け、“学ぶ楽しさ”を味わっています。

また先生や学生、そして留学生の皆さんとの交流に大いに刺激を受けています。

大学との結び役として

三鷹市には、住民・福祉団体・専門機関・行政が連携して地域の支え合いの仕組みづくりに取り組む地域ケアネットワークが、7つのコミュニティ住区ごとにありま

す。私はその一つ、新川・中原地区の地域ケアネットワーク・新川中原(ケアネット・しんなか)に民生・児童委員として参加し、活動しています。

杏林での学びは、ここに活かされています。例えば、昨年受けた理学療法学科の先生の授業がとても良かったので、各所に働きかけ、ケアネット・しんなかで講義していただく予定です。

また杏林大学公開講演会のことも紹介して歩いています。高齢者の方々は学びたくても、きっかけがなかったり、時間的、体力的に難しいと思っている方が多いようです。公開講演会なら気軽に参加し、学ぶことができるはずですよ。

杏林には地域住民の知的好奇心を満たしてくれる機会が多くあります。私は地域と杏林の結び役になりたいと思っています。



2019年3月の「みたか知り隊ウォーク」で、自作のパネルを使い参加者に解説する履修生。1年かけて水と緑が豊かな野川や古民家や水車が残る大沢の里など三鷹市大沢エリアを巡るハイキングコースを準備した

多様な経験活きる地域コミュニティ

おおくぼ たかし
大久保隆さん



観光やまちづくりを学問として学ぶ

会社を定年退職して、時間ができた時期に、知り合いから誘われたのが履修のきっかけです。

プログラムには観光に関するものもありました。私たちの時代に観光を学問として学ぶことはなかったし、現役時代は、建築設計の仕事一筋でしたので、新しい観点で興味もありました。

授業では、公共サインやユニバーサルデザイン、まちづくりなどを、学問的な切り口で聞けて、理論的に理解でき、実践につながることは、大学の普遍的な役割だと思います。

人や地元にもっと関わられるように

便利な街に住みたい高齢者は増える一方、そうした都市型の生活は、人や地域との関わりが希薄になりがちです。

授業の一環で、三鷹市内を歩きながら、地域の魅力を再発見してもらう「みたか知り隊ウォーク」の企画・実施に取り組んでいます。

地域には多様な経験を持つ人が大勢います。それぞれが得意な分野で関わることができれば、地域の絆も深まるのではないのでしょうか。



自主学習のようす

経験を活かし、海外で少年野球の指導者に

なすのしよ

外国語学部観光交流文化学科4年 那須野 昌



学生として、コーチとして

小学校から高校まで野球一筋でした。高校2年の時、けがをしてプレーを続けられなくなりましたが、大学生になってからは私も小学生のときに所属していた地元の少年野球チームのコーチになりました。

全国大会に何度も出場する強豪チームで、コーチとしてとてもやりがいがあります。今も毎週土日はグラウンドで子どもたちと汗をかいています。夏合宿も必ず参加していて、今年は浅間山の麓まで行ってきました。

コーチをしていて難しいと感じるのは、いかにやる気を出させるかです。今は「野球が大好き!」というより、習い事感覚だったり、親にやらされている子どもが多い気



今年、長野県で行われた夏合宿。盗塁や牽制球の見分け方などを指導する那須野さん(左)

がします。指導方法を工夫して、強いチームを作るのが一流コーチですが、私にはまだ力が足りません。

野球で得たスキルは、社会では役に立たないかもしれません。でも、野球を通じて得るものは沢山あります。

キャッチボールは、相手を取りやすい所に投げるのが基本です。これは相手の立場に立てないとできません。他にも、相手チームや審判、応援してくれる人への挨拶や返事、接し方なども同じです。

学生になると社会人と接する機会が増えましたが、野球で学んだ基本的な生活態度が、役に立っていると実感しています。

こうしたことを今度は私が子どもたちに教えたいと思います。子どもたちも、野球から学んだことを実感できるといいと思います。

海外でチャレンジ

大学とグラウンドで過ごす日々が4年目を迎えた頃、JICA海外協力隊で子どもに野球を指導する活動を知りました。ゼミの古本先生に、就職せずにチャレンジしてみたいと相談したところ、やりたいことをした方がいい、と背中を押してくれました。何度も説明会に通い、何枚もレポートを書き、ようやく採用が決まり、来年8月、タイに派遣されることになりました。生活習慣や言葉など、わからないことだらけですが、海外で新たなチャレンジをしてきます。

ボランティア活動でやりたいことが明確に

みやもと ひかる

総合政策学部企業経営学科3年 宮本 輝

高齢者施設でボランティア活動

ゼミで、大学に隣接する高齢者施設や高齢者同士の交流場所を訪問するボランティア活動をしています。

1回の活動時間は1時間程度です。ゼミ生4~5人のグループで施設を訪問して、自分たちで用意したことは遊びやクイズなどの脳トレプリントを一緒に解きます。答えが思い出せない素振りをされたら、初めから一緒に問題を読んでみたり、いくつかの選択肢から消去法で答えを導いたり、あるいは、スマホで関連する画像を見たりすることもあります。

活動で大事なものは、皆さんに楽しんでもらうことです。途中で趣味や昔話に脱線したり、プリントの余りで折り紙をしたり、私たちが柔軟性を持って、楽しく活動しています。

お年寄りから学んだこと

私もそうですが、ほとんどの学生は家族以外の高齢者と関わる機会がなく、最初は高齢者にどう接してよいかわかりませんでした。緊張するし、挨拶や声の大きさ、話す速さなど、相手の立場に立った行動ができていなかったと思います。

活動するうちに、そうしたことや、相手の話を最後まで聞くことができるようになりました。私たちは、高齢者という一つの枠で見るとはならず、それぞれ個性があり、個別のニーズがあることを理解し、目の前



の高齢者に敬意を持って接することが大切だとわかりました。

誰もが生き生きと暮らせる社会に

身近に障害をもつ人がいたこともあり、将来は福祉関係の仕事に就きたいと考えています。

福祉の仕事を知るため、これまでグループホームで入居者を支援するアルバイトや、福祉関係の会社を対象にサービスを提供しているIT企業でインターンシップをしています。福祉を支える仕事は様々で、専門知識を持った多くの職種の人が関わっており、制度や財源に関する知識が必要であることなどがわかりました。

授業やゼミでの学びを活かして「障害者福祉」について理解を深め、自分なりの価値観を固めていきたいと考えています。

そして、障害の有無、年齢、国籍などの違いを認め合えることができ、誰もが生き生きと、幸せに暮らせる社会になるよう、自分なりに貢献したいと思っています。

総合政策学部で学ぶ AI

いま、社会では急速に AI (人工知能) 技術が発展し、自動運転や医療への活用など様々な分野で実用化が進んでいます。こうした仕事を支えるために、理系の人材だけでなく、文系の人材が求められています。総合政策学部では、進む技術革新に対応するための経営

センスを学ぶ教育を進めています。授業を通して、膨大な情報 (ビッグ・データ) を活用した企業分析や新たなビジネスモデルを模索するためのプログラミング技術などの習得をめざす企業経営学科の糟谷崇准教授が解説します。



糟谷 崇 (かすや たかし)

総合政策学部准教授、総合情報センター長
慶應義塾大学大学院博士 (商学)。2010 年より
杏林大学

ますます必要となる AI 人材 なぜ文系で AI 教育が重要なのか

近年、ディープラーニング (深層学習) ※を始めた AI (人工知能) ※技術が発展しています。企業でも AI が重要技術であるとの認識が広がっているものの、企業戦略への導入はまだ進んでいません。その大きな理由のひとつが人材不足です。

どのような形で AI や機械学習※が役に立つかを、明確に理解している人材は少ないのです。総合政策学部では、今後、AI 活用の面で活躍できる学生を育てたいと考え、「経営戦略論」や「学際演習」などの授業の中で AI に関連したビジネスモデルの理解に関する内容や Python (AI に適したプログラミング言語) の教育を導入しています。



※ AI (人工知能)

人工知能とは、これまで人間にしかできなかった知的な行為 (認識、推論、言語運用、創造など) を、どのような手順とどのようなデータを準備すれば、それを機械的に実行できるかを研究する分野。(引用: 日本大百科全書)

大手リサーチ企業 ガートナー・ジャパンが発表した「人工知能に関する 10 のよくある誤解」によると、すごく賢い AI はまだ存在していませんし、機械学習、深層学習 (ディープラーニング) を導入すれば、誰でもすぐに、すごいことができる訳でもありません。

すごいことを成し遂げるには、すごいエンジニアとすごい AI に育つよう、育てる人のスキルが求められます。

AI 技術はテクニカルな領域で、データサイエンスの分野に優れた人材が必要になる一方で、AI プロジェクトに参加したいと考えている人も多数います。こうしたプロジェクトを管理する仕事は、必ずしも技術分野の人だけの仕事ではありません。

AI 活用の 3 ステップ

データを「ためる・つなぐ・活用する」

そもそも AI を活用するためには、どのようなデータを用意するかが大切です。IBM Watson の分析プロジェクトを手掛けた高田和広氏は、データを活用するためには、その前の、ためる・つなぐのステップが重要だと指摘しています。

このうち、データをつなぐ能力を育てることは、これまで総合政策学部が重視してきた教育です。つまり、政治・経済・法律・国際関係・福祉政策を広く学ぶことで、一つの領域にとどまらず、物ごとをつないだり、結びつけて考えられる、複合的な視点で社会の課題と向き合う力をつけるというものです。

データを活用して

新しい意味を見つける

私は、分析を行うために適したデータがどのようなものであるかを理解できる能力とは、物事に新しい意味を見出す能力だと考えています。

なぜならば、社会的課題が山積する現代において、大量のデータ (ビッグ・データ) から本質的な課題解決 (すなわち新しい意味) を見つけることが、これからの社会を生き抜くために必要だからです。

この考え方は、ミラノ工科大学のロベルト・ベルガンディ教授が提唱した概念に基づいています。この概念は、製品に新しい意味 (価値) を与えることによって生じるイノベーション※を指します。ベルガンディ教授は、What (何をしたいか) ではなく、Why (なぜこれが欲しいか) を提案することでイノベーションが生み出されると述べています。

例えば、フォード・モーターの創業者であるヘンリー・フォードは「もし人々に何が欲しいかを聞いていたら、彼らはもっと速い馬が欲しいと答えていただろう」という言葉を残しています。自動車がない時代に既存のものにとられず、人々の本質的なニーズ、つまり速く移動したいという欲



糟谷准教授、木暮准教授、北島教授が担当する「学際演習 (プログラミング)」では、データ分析ツールやプログラミング言語を活用した演習やプログラマーによる講演が行われた

“文理融合” のねらい

iPhone など有名なアップル社はスティーブ・ジョブズとスティーブ・ウォズニアクが創業しました。ジョブズはウォズニアクの技術力を商業的成功に結びつける天才でした。

日本でもソニー創業時の井深大と盛田昭夫が同じような関係とされています。

AI のような技術に市場性を持たせるには AI (商品) のことを多少理解しつつ、資金調達や財務・経理に関する知識、コミュニケーション能力などが必要とされます。

S・ジョブズ氏と盛田氏の二人とも、このような能力が高かったことが、アップルとソニーが大企業に育った一因なのでしょう。

求 Why を見抜いたからこそ、彼は成功を収めることができたのです。

スタートアップ企業がつくる 新しい意味

経営学やマーケティングでは、近年、価値をどのように創り出すかということが重視されていて、こうした議論はますます活発になってきています。現実の企業競争にも、こうした議論の影響が及んでいるようです。現在の経済・ビジネスは、GAFA (Google, Apple, Facebook, Amazon) をはじめとする IT 企業によって牽引されています。そして既に GAFA に代わる存在として、アメリカでは多くのユニコーン企業 (創業 10 年以内のスタートアップ企業で評価額 10 億ドル以上の未上場企業)、例として配車サービスを行う Uber や宿泊

サービスの Airbnb、音楽配信サービスの Spotify などに注目が集まっています。こうした企業は、まさに新しい意味を人々に提案し続けているのです。

総合政策学部だからこそできる 教育がここに

総合政策学部では、学際性の観点から社会課題をどのように捉えるか、という教育をこれまでずっと行ってきました。そこに、AI 技術を中心としたテクノロジーの浸透がどのように進行しているかを理解する教育、データそのものの意味をどのように理解して技術と結びつけるかを考える教育を導入し、将来の可能性を秘めたスタートアップ企業で活躍できる人材を養成したいと考えています。

※ 人工知能と機械学習と深層学習 (ディープラーニング)

この 3 つのキーワードの関係は「人工知能 > 機械学習 > 深層学習」という構造で、どのキーワードも人工知能技術の 1 つです。

人工知能にはそれぞれ用途があり、学習をしないと何も出来ません。機械学習では過去の事実データから用途に即した結果を反復学習して、「与えられたデータから特徴を捉える」

ことを大量のデータから学習し、精度の高い予測をできるようにします。

深層学習では、この機械学習をモデル学習として教え、人工知能が自動的に特徴を抽出して学習を進める方法です。深層学習を成功させるためには学習初期の大量なモデル学習とそれに見合うアルゴリズム開発が必須です。

※ イノベーション

技術革新と訳される。イノベーションは IT 分野などの技術進歩だけの話ではありません。経済学者ジョセフ・A・シュムペーター (1883-1950 年) は、イノベーションを次の 5 つに分類しました。

1. 新しい生産物の創出
2. 新しい生産方法の導入
3. 新しい市場の開拓
4. 新しい資源の獲得
5. 新しい組織の実現

シュムペーター著『経済発展の理論』より

三鷹キャンパス将来構想 検討チームで議論始まる

医学部を中心とした三鷹キャンパスの教育環境整備が始まっています。付属病院高度救命救急センターの北側に取得した新校地では、今秋から新しい体育館の建設が始まり 2021 年春の完成を予定しています。

こうした中、三鷹キャンパス全体の将来構想 (ランドデザイン) を検討するプロジェクトがスタートしました。メンバーは松田剛明副理事長や渡邊卓医学部長をはじめ、医学部と保健学部の教育部門の教員らを中心に構成され、9 月 25 日に初会合が開かれました。

初会合では、はじめに新校地の残る部分で建設が検討されている医学部関連棟のあり方について意見が交わされ、講義室など学生の教育環境が悪化しているなかで、この改善を最優先に進めるべきだという声が多く聞かれました。

一方、現在の三鷹キャンパスには、医学部講義棟、基礎・臨床医学研究棟、保健学部看護学科も入る看護・医学教育研究棟などがありますが、どのような優先順位で建て替えなど整備を進めていくかについても広く学内に意見を求め、検討を重ねていくことになりました。

松田副理事長は「医学部は来年、創立 50 周年を迎える。10 年後、そして次の半世紀を視野に、最先端の機能と使いやすさを備え、学生や教職員が誇りに思えるキャンパスを目指して行きたい」と話しています。



わたしの書棚から
特別編

読書の秋を楽しもう

読書の秋、皆さんはどんな本を読みますか？
今号は、「わたしの書棚から」の特別編として、4人の教員が「読書の楽しみ方」や「自身を決めた本」を紹介します。Teacher of the Year 2018の表彰者の中から4人の教員に伺いました。

本を読む楽しさ

吉田：作品の舞台になった場所やお店を訪ねて、「想像通りだった！」「ちょっと違ったな」と勝手に答え合わせするのも楽しいです。

私は、神社仏閣巡り、特に一の宮巡拝が趣味なのですが、内田康夫の旅情ミステ

リーのおかげで、これまで諸国一の宮106社のうち69社を参拝できました。東野圭吾の作品で、加賀刑事が活躍する日本橋・人形町・水天宮あたりも詳しくなりました(笑)。

荒川：実際の生活や身の回りのできごとと異なる世界にはまりこんでいられることです。だから、長編作品が大好きです。ドン・キホーテ、アーサー・ランサム全集、赤毛のアンや指輪物語シリーズ、ナルニア国物語、ゲド戦記、住井すゑ『橋のない川』、村山知義『忍びの者』、劇画では白土三平『カムイ伝』『カムイ外伝』『忍者武芸帳』などでしょうか。

岩橋：読んだことで得られるものと、本に書いてあることをやって楽しめることでしょうか。

小学生のころ読んだ本に『大きな森の小さな家』(ローラ・インガルス・ワイルダー著)があります。アメリカの生活に思いを

馳せたりしてとても興味深かったです。

ローラと同じように、新雪の上に倒れて人型をつくる雪遊びや、砂糖を煮詰めて雪の上で冷やして飴を作って食べました。実際自分もやってみるこ

とで、物語の印象が深くなった気がします。

長谷部：本には、著者の意見が表れています。本に向き合い、本を読むことは、著者の意見に向き合うことです。私にとって本を読む楽しさは、著者とコミュニケーションを図れることにあります。会ったこともない人の「意図や意見、思い」に触れ、「対話」できるなんて、面白いと思いませんか？

作品の舞台訪ね、
諸国一の宮69社を参拝

砂糖煮詰め、雪で固めて
飴を作る 追体験を楽しむ

私を決めた本、変えた本

吉田：『死ぬ瞬間—死とその過程について』(エリザベス・キューブラー・ロス著)やホスピス運動の創始者シシリー・ソンドラスの緩和医療に関する本です。

きっかけは医学部5年生の時に受講した「医の倫理」の特別講義でした。将来自分がどの診療科を選択するにしても、生涯にわたって医の倫理や全人的医学などの医のプロフェッショナルリズムを涵養することの重要性に気づかされました。

荒川：ヨハン・ホイジンガ著 堀越孝一訳『中世の秋』(中央公論社)です。装丁が美しく、価格の割にページ数が多く、しかも2段組でたっぷり読めるのが購入の理由でした。

この本を読んで、それまで漠然と大学はどこかの文学部に行こうと思っていたの

を、歴史、とくに西洋中世史を勉強すると決めました。大学で中世史を専攻する友人も、みな、この本をはじめ、同じような読書経験を経ていたようです。

1冊の本が大学での専攻や自分の将来を決めた

仕事につながる「少し興味をもつ⇒調べる ⇒だんだん興味がわいてくる⇒また調べる」姿勢学ぶ

物事を判断するときヒントになる言葉があった

岩橋：私の仕事に対する考え方を決めめた本は今西錦司著『進化とはなにか』(講談社)です。これは高校のテストで一節が出典さ



よしだ まさお
医学部准教授 吉田 正雄

杏林大学医学部卒業。衛生学公衆衛生学教室所属。専門は生活習慣病、臨床疫学、生命倫理など。忙しいとき、考えが煮詰まってしまったときに読書でリフレッシュする。好きなジャンルは推理小説



あらかわ
外国語学部教授 荒川みどり

東京大学大学院修了。専門は日本語教育。小さい頃から絵本や漫画、週刊誌や『家庭の医学』など何でも読む。中里介山の巨編『大菩薩峠』は退職したらまた読みたい一冊。井の頭図書館副館長

加古里子の絵本だるまちゃんシリーズをあげたのは長谷部先生。「子どもの遊びを描いているだけのようで、実は登場人物が置かれている社会生活のリアリティを描き出しているところが今読んでも面白い」と話して下さいました。

動物や昆虫、植物の図鑑をよく読んで(見て)いた岩橋先生は、「とんぼにはオニヤンマ、ゲンヤンマ、シオカラトンボ、ナツアカネ、アキアカネ、イトトンボなどたくさん

本の思い出

種類があるのを知りました。今でも飛んでいるのを見るとワクワクします」と話します。

『教科別学習大事典』(全15巻)に夢中になった吉田先生は、「地球と宇宙」の巻がお気に入りだったそうです。

村岡花子や川端康成が翻訳した小学館の『少年少女世界名作文学全集』をあげたのは、荒川先生。装丁、カバーの手触りなどはつきり思い出せるくらい、何度も読み返したそうです。

れていて興味を持ち、その後改めて読みました。動物好きの私はこの本に影響を受けて、霊長類、特にゴリラの社会行動に興味を持つようになりました。大学時代には、

大学総長)に直接お目にかかってお話を伺うことができました。この本に出会い、自分の興味のあることを自身で調べたり、学ぶことは次々に世界が広がりとても楽しいことなんだと実感しました。

「少し興味をもつ⇒調べる・学ぶ⇒だんだん興味がわいてくる・楽しくなる⇒また調べる・学ぶ」という姿勢は現在仕事をすすめるうえでとても役に立っています。

長谷部：私を決めた本は、聖書です。クリスチャンの家庭に生まれたこともあります。大学生になるころには、自身の考えをまとめるためにも聖書を深く読むようになりました。不思議と必要な言葉が聖書にはあり、そこに励まされて、艱難を乗り越えられました。



図書館へ行こう

医学図書館・井の頭図書館 得!? 情報

ミニレクチャー @井の頭図書館

2階のセミナー室で、教員がミニレクチャーを開催しています。

- これまで開催したのは、
- 「明治日本における西洋簿記事始め」
- 「イギリスの児童文学」
- 「辞典今昔—ことば・こころ—」
- 「トルコとイスラーム世界の国と文化」
- 「スポーツとマインドフルネス」などなど

学部を問わず学生向けにわかりやすく解説します。今まで知らなかった世界を知る絶好の機会です。

話題の本がすぐ読めます @井の頭図書館

市区町村の図書館では、人気の本は1年以上待たないと読めないことも。杏林大学図書館ならそういうことはありません。

- 直木賞・本屋大賞を同時受賞 恩田陸『蜜蜂と遠雷』(幻冬舎)
- お笑いタレントが芥川賞を受賞し話題になった 又吉直樹『火花』(文藝春秋)
- 最年少で芥川賞を受賞 綿矢りさ『蹴りたい背中』(河出書房新社)
- 「倍返し」が流行語大賞になった半沢直樹シリーズ 池井戸潤『オレたちバブル入行組』『オレたち花のバブル組』『ロスジェネの逆襲』(文藝春秋)
- 外国語学部 関准教授が翻訳 ビジネス書のベストセラー ハンス・ロスリング(著)・関美和 訳『FACTFULNESS:10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』(日経 BP)

他にも、話題作がそろっています。

世界的彫刻家の作品 @井の頭図書館

館内2階中央部に設置されているのは、世界的な彫刻家 安田侃氏の作品「TENPI」(2016)です。井の頭キャンパス完成を記念して設置されました。

安田氏は北海道出身の彫刻家。現在はイタリアをベースに活動しています。その作品は日本だけでなく、ヨーロッパでも展示されています。



教えます、わたし流の読書

医学部
吉田正雄

外国語学部
荒川みどり

保健学部
岩橋桜子

総合政策学部
長谷部弘道



いわだて さくらこ
保健学部准教授 **岩橋 桜子**
杏林大学大学院博士(医学)。専門は臨床法医学。最近の読書タイムは寝る前。TVドラマ化した時代小説を読んでいる。俳優の顔を思い浮かべながら読むと楽しい。義理人情にほろっとくるのも時代小説のいいところ



は せ べ ひろみち
総合政策学部講師 **長谷部弘道**
一橋大学大学院博士(社会学)。専門は労働社会学。研究書籍、回顧録、工場史などジャンルを問わず読む。漫画も好きで、小山ゆう『がんばれ元気』、手塚治虫『アドルフに告ぐ』、西岸良平『三丁目の夕日』などは面白い

こんな本はいかが？

岩橋桜子先生・選

星新一のショートショート 星新一著/新潮文庫
本なんて長くて読めないと思っている方、読む時間がない方におすすめします。SFやファンタジー、ユーモアありとバラエティーに富む作品が1000篇を超す！ほどあります。1篇数分で読めてしまいますし、最後のオチに考えさせられることも多い作品ばかりです。近未来として書かれた内容が、あれ？現代の状況とそっくり？なんてことも。一度読み始めると次々に作品を読みたくなる不思議な力があると思います。

ほかに
シャーロックホームズシリーズ アーサー・コナン・ドイル著/新潮文庫
御宿かわせみ 平岩弓枝著/文春文庫

長谷部弘道先生・選

DJ選曲術 何を考えながらDJは曲を選びそしてつないでいるのか？
沖野修也著/リットーミュージック
DJ(=選曲)をすることと論文を書くことは、とても似ています。この本には、「DJとはいかなる作業か？」という問いへの答えが、非常にわかりやすく、論理的に書かれています。つまり、この本を読めば、論文を書くコツも、何となくつかめると思います。

ほかに
余は如何にして基督信徒となりし乎 内村鑑三著/岩波文庫、**スニーカー文化論** 川村由仁夜著/日本経済新聞出版社、**世間とは何か** 阿部隆也著/講談社現代新書、**日本の思想** 丸山眞男著/岩波新書

若い人たちへの薦め



吉田：私はマラソンも趣味で、休みの日は長い距離を走っています。長い時間をかけて自分の足で走ると、季節の空気や温度、景色、匂い、音などを感じることが出来ます。また、自分と向き合える贅沢な時間でもあります。
読書も同じ感じがします。時間をかけることは非効率と感ずるかもしれませんが、

その過程は決して無駄ではなく、むしろその過程から得られることが多いと思います。
荒川：生活体験に近い世界を舞台にする物語や小説は、感情移入しやすく親しみやすいと思います。
一方で、まったく異なる社会や時代に生きる人たちの考え方や行動を知り、追体験できるのも、読書ならではの楽しみです。

んなジャンルが自分の好みに加わるかは、今まで読んだことのない本に手を伸ばしてみないとわかりません。映画や演劇よりも手早く選べて、自分の手の中で何度でも楽しめる別世界を増やしてみたいかがでしょうか。
岩橋：お薦めしたいのは以前読んだ本をもう一回読んでみる事です。

感動などが入った引き出しが作られていくのではないかと思います。
長谷部：本を読むことは、自身と「対話」をすることで、「自分を見つめる」ことでもあります。自分に置き換えて考えると、何かしら新たな気づきがあるはず。たくさん本や著者を通じて、あなたにはたくさんの選択肢が出てくるはず。それはあなた自身の自己認識を、限りなく豊かなものにしてくれるでしょう。

こんな本はいかが？

吉田正雄先生・選

死ぬ瞬間-死とその過程について E・キューブラー・ロス著/中公文庫
精神科医E・キューブラー・ロスは、アメリカ国内で約200人の臨死患者にインタビューを重ねながら、臨死患者が死に至るまでの心理過程に5つの段階があるとまとめました。世界的なベストセラーでロングセラー『On death and dying』(1969年)は誰にでも訪れる死を理解するために、いまなお世界中の人々に読み継がれています。
ほかに
医学探偵ジョン・スノウ コレラとブロード・ストリートの井戸の謎 サンドラ・ヘンペル著/日本評論社
信州に上医あり 若月俊一と佐久病院 南木佳土著/岩波新書

荒川みどり先生・選

チャリング・クロス街84番地 ヘレーン・ハンフ編著 江藤淳訳/中公文庫
中学の時、夢中になって読み、あげくにこの本自体に影響されて、生まれて初めて編集者に感想の手紙を送ってしまいました。こんな大胆な行動をとったのは後にも先にもこの作品に出会ったときだけです。
ほかに
趣味は読書。 斎藤美奈子著/ちくま文庫
虹色のトロツキー 安彦和良/中公文庫-コミック版、**石の花** 坂口尚/講談社漫画文庫
「坊っちゃん」の時代(5冊シリーズ) 関川夏央・谷口ジロー/双葉社

先ほど『大きな森の小さな家』の話をしましたが、この機会に何十年ぶりに買って読みなおしました。表紙も挿絵もそのまま、小学生の頃にタイムスリップした感じがしました。私が座って読んでいたストーブの前の椅子まで思い出しました。
文中、主人公ローラのお父さんが豚の膀胱を膨らませて風船にして、それでローラたちが遊ぶシーンがあります。最初に読んだときはイメージが全くわきませんでした。今読んでみると「ふむふむ、膀胱粘膜は移行上皮だし、よく伸びるから風船にもなるんだな」なんてことを考えました。
同じ本を再度読むと、以前わからなかったことが理解できたり、どこかに新しい発見をしたりします。繰り返し本を読むことで自分の中に読書で得られた知識、印象、

「わたしの書棚から」では、これまで12名の教職員が、文学、ビジネス・経済、歴史、社会、人文・思想、サイエンス、コミックスなど様々なジャンルの本を紹介してくれました。『死ぬ瞬間』は第17号で医学部の楊 國昌教授も推薦しています。読書の醍醐味は「知らない世界をのぞくこと」という総合政策学部 知原 信良教授は専門外が楽しい、と19号で新書を薦めました。
話題の本や推理小説、時代小説、劇画などから読み始めるのもよいでしょう。それぞれのスタイルで読書を楽しんでください。(編集部)

サポートライブラリアン・サービス @医学図書館

三鷹キャンパス所属の学生限定のサポートライブラリアン(専属図書館員)サービス。
登録すると、専属図書館員が、レポート、学習、調べ物のお手伝いをします。しかも専属なので卒業まで継続的なサポートが受けられます。
「データベースの使い方がわからない」「実習のレポート作成に必要な文献を集めたい」というときに、専属図書館員がお手伝いします。ただし単純な代行検索や代行コピーはできませんので、悪しからず。

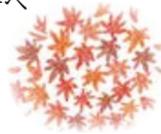
詳しくは、医学図書館カウンターへ



メルマガでお役立ち情報 @医学図書館

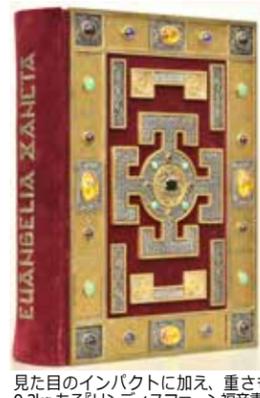
医学図書館が毎月1回発行するメールマガジンでは、新着図書の紹介や各種講習会のお知らせなどお役立ち情報を送信しています。
図書館長による真面目で楽しいエッセイが読めたり、図書館員のお薦め図書が紹介されたりしています。あなたも読者になってみませんか？

詳しくは、医学図書館カウンターへ



めずらしい本いろいろ @井の頭図書館

杏林大学には、表紙にカラフルな石をちりばめた見た目もゴージャス!?な『リンディスファーン福音書(Das Buch von Lindisfarne)』があります。
ラテン語で書かれた装飾写本で、本文にも鮮やかで精巧な挿絵が描かれています。原本は7世紀末に作られました。
他にもルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』(刺繍絵本)(1872)や「鳥獣人物戯画」の復刻版などがあります。これらは館内で定期的に展示しています。



見た目のインパクトに加え、重さも9.3kgある『リンディスファーン福音書』





金田一 教授の研究室から ②

教師職の実態

世間の人たちは大学の先生をどういふ仕事だと思っているのだろうか。夏休みなどの長い休暇があって、週三日ぐらい拘束されるだけで、社会的には何となく敬意を払われて、いい仕事だなあとと思われるのではないかな。せめて自分の子供にはそういう仕事をしてもらいたいものだ。私もそう思っていた。自分で大学で教えるようになるまでは、その幻想を抱いていた。

30数年前に本学の外国語学部で仕事が決まった時、やれやれこれで安心だと思いき、嬉しかった。同級生には、毎日会社のために働いて、朝早く起きて、夜遅くまで家に帰れず、たまの休日も返上して、すべての時間を会社に捧げているような者が多くいて、しかもそのような日常であることを、まるで自慢話のように得々と語るのを聞かされて、とてもそんなことはできない、自分の力をはるかに超えたことだと感心させられていた。しかし、それほどではないけれど、大学の教師も結構大変な仕事なのだ。

教えているだけなら、あまり苦勞は要らない。むしろ楽しくさえある。しかしそれだけでは済まないのだ。入学試験の

金田一 秀穂 (きんだいち ひでほ) : 1953年東京生まれ。東京外国語大学大学院修了。中国大連外語学院、米イェール大学、コロンビア大学などで日本語講師。1988年より杏林大学外国語学部で教鞭をとる。2019年杏林大学特任教授

ための様々な雑事をしなければならない。キャンパスが八王子にあったときには、万一の降雪のための雪掻き要員として、大学のそばのふだんは倉庫に使われている窓のない部屋に詰め込まれたりした。ふだんも、受験生を募るために全国の高校を回ることに、海外研修ではツアーコンダクター兼指導者として、学生たちの面倒を見ること、オープンキャンパスに出ること、不心得の学生のために迷惑をかけた人々のところへお詫びをしに行くこと、いろんなことをしなくてはならなかった。

もちろん、教室や研究室で学生や本を相手にしているだけでは決してできない貴重な経験をさせてもらったけれど、しかし、私は本質的には、現代の日本社会にはおよそ不適格な、怠惰で退嬰的な人間なのである。

そんな人間がよくぞ永く勤められたものだ。この四月からはほとんどの会議がフリーの立場になった。やっと少し怠けられそうに幸せである。



健康ひとくちメモ ②

貧血の話

岡本 晋 三鷹キャンパス保健センター長

貧血という言葉をよく耳にしますが、これはどのような状態なのでしょう？

教科書では「末梢血液中のヘモグロビン、赤血球数が低下した状態」と定義されていますが、健康診断を含め、一般的にはヘモグロビンの数値で貧血の有無を判定します。

赤血球は血液の赤い色のもととなっている血球（細胞）ですが、その中にあるヘモグロビンが酸素を体中の組織へ運んでいます。このため、赤血球、すなわちヘモグロビンが少なくなると、体に酸素がうまく運ばなくなると、息切れ、動悸、疲れやすいなどの症状が出てきます。

ただし、体には順応性があるので、徐々に貧血が進行した場合は、自覚症状が全くないことも珍しくありません。

どうして貧血は起こるのか

一つには、生産不足があげられます。赤血球は骨髄という場所で作られますが、その材料（特に鉄）が不足している、または骨髄自体に病気がある、などの理由で赤血球がうまく作れないことがあります。

また、出血（主に生理）により赤血球が失われることも原因となります。多少の出血があっても、骨髄が産生を増加し補うため、

当初は貧血にはなりません、出血が長引いたり大量であったりすると、結局は材料である鉄が不足し、貧血が出現してきます。

鉄分の不足とその他の原因

健康診断での貧血はほとんどが女性で、生理の出血に鉄分の摂取不足が重なる「鉄欠乏性貧血」です。この場合は、鉄剤を内服すれば1~3か月で貧血は改善します。自覚症状がない場合でも、貧血が改善すると楽になったと感じることがよくあります。

「鉄欠乏性貧血」は、血液検査で診断できますが、背景に病的な出血が隠れていないか確認することが重要です。生理の他にも、子宮筋腫などの婦人科疾患、胃（胃潰瘍・胃がん）や大腸（大腸がん・腸の炎症・痔）など消化管からの出血も貧血の原因となります。男性の貧血は年齢に関係なく、また女性でも年齢に応じて、こうした病気がないか、追加で検査を受けることをお勧めします。

貧血の多くは、鉄剤の内服で改善しますが、出血以外にも他の重大な病気が隠れていることもあります。健康診断で貧血と診断された方は、まずは保健センターにご相談ください。

おかもと すずむ
医学部総合医療学教授、三鷹キャンパス保健センター長。
慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学病院、水戸赤十字病院勤務。
2014年より杏林大学



クラブ・サークル 井の頭キャンパス、三鷹キャンパスで活動するクラブ・サークルの2019年度上半期の主な大会記録、活動記録を紹介します。



大会記録

- [井の頭キャンパス]
- サッカー部**
東京都大学サッカーリーグ戦 4部 10位
- ソフトテニス部**
三鷹市ソフトテニス連盟夏季団体戦 4部準優勝
- 少林寺拳法部**
第56回少林寺拳法関東学生大会 予選敗退
- 陸上競技部**
第73回全関東医歯薬獣医科大学対抗陸上競技大会
女子800m 4位、女子1500m 7位、女子3000m 8位
- 硬式野球部**
東京新大学野球連盟春季リーグ 1部 5位
- 軟式野球部**
第28回関東大学軟式野球連盟春季リーグ 西リーグ 6位
- ピンツィーズ (ソフトボール)**
三鷹市ソフトボール連盟大会 1回戦敗退
- かながな〜とら (軟式野球)**
ATHLEAD FIELD BASEBALL リーグ2019 1部予選リーグ出場



- [三鷹キャンパス]
- ◇第62回東日本医科学生総合体育大会
- 準硬式野球部**
2回戦敗退
- 硬式庭球部**
男子、女子 1回戦敗退
- 軟式庭球部**
男子団体予選リーグ 5位、女子団体予選リーグ 3位
- バレーボール部**
男子ベスト 16、女子ベスト 16
- バドミントン部**
男子団体 7位、女子団体 8位、男子シングルスベスト 16 (近藤史貴・5年、菅野寛之・4年)
- サッカー部**
ベスト 16
- バスケットボール部**
男子 3回戦敗退
- 柔道部**
団体 5位、個人 60キログラム級 3位 (内田真聖・3年)
- 剣道部**
男子団体ベスト 8、女子団体ベスト 16、男子個人ベスト 16 (高杉太郎・3年)



東医体で優勝した水泳・片塩陽里さん



あいざわ こだい 相澤虎大さん (総合政策 学部2年) ライフセービング大会で活躍

相澤さんは、国内唯一の国際大会・三洋カップ (6月22、23日・福岡) に初めて日本代表として出場しました。若手強化育成選手で構成される日本Bチームの一員として、世界のトップチームと対戦し、7チーム中5位の成績を収めました。
第34回全日本学生ライフセービング選手権大会 (9月21、22日・千葉) では、個人種目・オーシャンマンで優勝を果たしました。

水泳部

50m 背泳ぎ 1位、100m 背泳ぎ 1位 (片塩陽里・1年/2競技とも大会新記録)、100m バタフライ 7位 (加藤大貴・1年)

端艇部

男子フォア・男子ダブルスカル・女子クォードブル 1回戦敗退
女子ダブルスカル 4位 (川名里沙・4年、中西るりな・1年)

ハンドボール部

男子 2回戦敗退

ゴルフ部

男子団体 5位

卓球部

男子団体ベスト 16、女子団体ベスト 16

アーチェリー部

男子グリーン 1位 (井上健太・1年)、男子グリーン 3位 (吉田大祐・1年)、女子グリーン 1位 (吉川侑里・1年)、女子シングル 3位 (川原美久・4年)、女子シングル 7位 (肥田彩也子・3年)

柔道部

団体戦準優勝



編集を終えて

- 「天気の子」が公開されたこの夏、東京湾を日けて襲来した台風15号が通過した月曜日には交通機関が大幅に乱れました。井の頭公園でも、あたり一面に散らばった大量の折れた枝や木の葉は風の強さを物語っていました。街路樹の倒木などで吉祥寺通りも大渋滞しましたが、植栽が比較的若い井の頭キャンパスは幸い秋学期開講前で、いつも通りの佇まいを見せていました。台風の接近に伴う鉄道会社の計画運休と通勤を促される人々の間の理不尽を考えさせられました。(有)
- AIを先取りした「鉄腕アトム」。人間と同様の感情を持って活躍する少年ロボットのエネルギー源は原子力という設定でした。最新の技術をうまく使うかどうかは、やはり人間の出番です。AIは理系の分野とも見られますが、これをうまく活用する要は文系の人材のようです。文理融合の基礎知識を備え、学際的な視野と判断力を持った人材。杏林大学が目指してきた教育方針ともつながります。AIを良い方向に使いこなす人材が杏林から多く育っていくことを願っています。(島)
- 駿馬赤兎 (本名中板秀二さん、石川県出身、間垣部屋→伊勢ヶ濱部屋) は、今年の5月場所まで唯一の杏林大学出身力士として活躍しました。トランプ大統領相撲観戦当日に断髪式を行い、「私も髪を剃りました」と、中村信幸先生 (元外国語学部教授) から写真を添えてご連絡をいただきました。165cmの体で303勝302敗25休 (91場所)、最高年齢下昇進、最高番付幕下22枚目、序二段優勝1回と戦い抜いた相撲道に心から拍手をお送りします。(酒)